ビジュアル系

子ども・家族の理解と支援

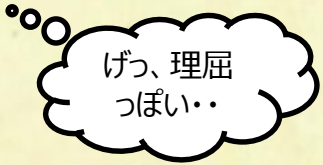
岡田隆介

五　超具体的なコミュニケーション支援（思春期編　その１）

思春期は、大人への階段をかけあがっているさなかです。きっかけは身体の変化で、そこから心にも「性」と切り離せない変化が始まります。

「思春期三点セット」

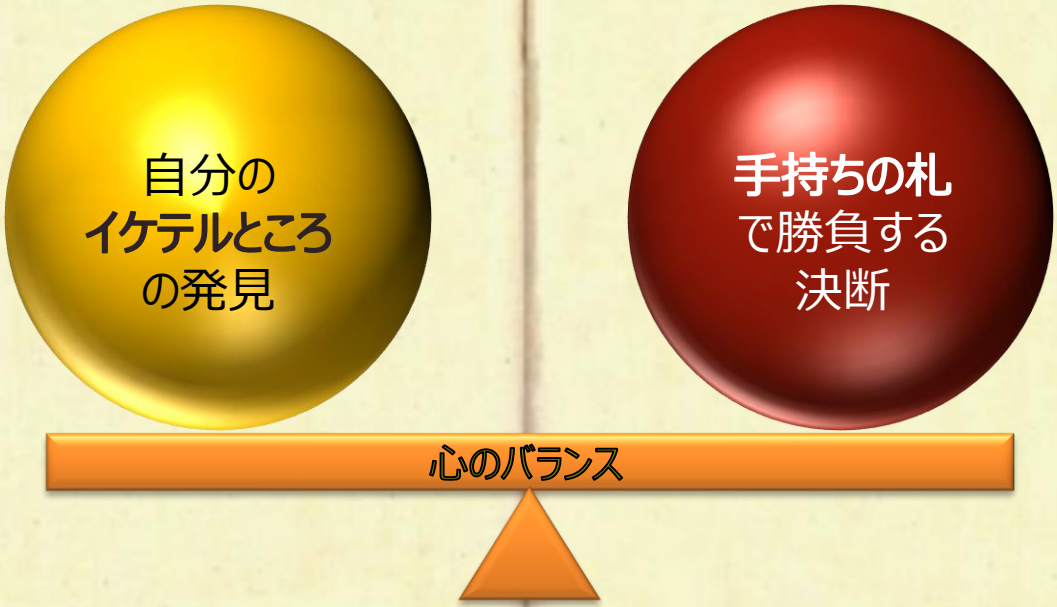
そもそも思春期って、どういうものなんですか？



二次性徴をもって思春期は始まると言ってもいいだろう。身体の変化は、生まれてはじめてあけっぴろげにしゃべれない「秘密」となる。この秘密を自分の胸に納めておくには、ある程度「孤独」に耐えるだけの育ちが必要だ。

その意味で、秘密や孤独を共有できる親友がいるといないとで、思春期の色合いはずいぶん違ってくる

社会参加の準備　“思春期の課題”



スキになれなかった自分の中のイケてる部分を知ったのも、さんざん探した“青い鳥”に見切りをつけたのも、秘密や孤独を共有する友人とのやりとりがきっかけだったりします。

生まれて、初めて家族以外の人と相互に影響しあう時期といえるでしょう。

ママ友パパ友の子育て談義のマンガは団士郎氏の許諾を得て、木陰の物語と家族の練習問題から転載しています。

つい口癖で、「どうして～できないの、いつもあなたは～」と言ってしまう

その「否定形疑問と一般化」の組み合わせって、大人のサガみたいなものよね。私は、思わず口から出たら「また言っちゃった、進歩のない自分が情けないわ」とボケて中和するの。そもそも、わざと怒らせようとする行為なんかは見てやらない。怒りのキャッチボールを避けるのがなにより大事、そう思ってるから

鉄は少し冷めて

親だからこそ、わが子のためを思って言ってるのに「そんなこと頼んでない！」だって。情けないやら腹が立つやら、ほんと、思春期は扱いにくいわ

彼らは、そういう上から目線に敏感なのよ。「こっちの事情で悪いけど、ちょっと頼んでいいかな」の協力依頼が効果的よ。それから叱るタイミングだけど、“鉄は少し冷めて打つ”くらいがちょうどいいと思う

せっかく「それ似合ってるな、かわいいやん」てほめてるのに、「ハァ？ウザいんだけどぉ」って、ほんまムカつくわ

なんぼなんでも直接的過ぎやわ。ハラスメント臭、ぷんぷんやし。「似合うてるなぁ、どこで買うたん？」とゆうてみ。間接的に、お店やその店を選んだセンスを褒めんねん。「参考にするから教えてえな」と続けたら、カンペキやわ

数字で自己評価

対外試合や試験で、「どうだ、結果は？」って尋ねると、「えっ？フツー」「そこそこ、みたいな」「ていうか、ビミョー」などと、わけのわからん返事をする。なんとかならんのかねぇ

デジタル世代には数値化ですよ。「前回を５としたら、今回はどのくらい？」と。減っていたら「よくそれくらいで食い止めたね」、同じだったら「この時期に現状維持ってスゴクない？」、上乗せがあったら「何がよかったの？教えて」と返してみたらいいですよ